

# 入 選

## 庭園物語

### ～家族と未来をつなぐ庭

# 入 選

太田真由美様

薔薇やチューリップ、クレマチス、紫蘭、パンジーが満開になる約80坪の庭。イチジクやサクラランボは苗から育て、毎年、実をつけてくれるため見た目もお腹も満足させてくれます。野菜は、農業を営む群馬の両親が、トマトやキュウリ、ネギの苗などをお裾分けしてくれ、それを植えます。子どもが生まれる前は、とにかく庭いじりが楽しくて週末は、ヘッドライトをつけて草むしりや剪定をしていると夜が明けることも多々ありました。そして、息子が誕生すると、0才でまだハイハイができない時期から、花や庭石に親しみ・観察し、いつの間にか薔薇が大好きになりました。5月に満開になる薔薇は、毎年10個以上のブーケをつくり、保育園の先生や知人、母親にプレゼントします。そのたびに「花好きな息子は「もう薔薇は誰にもあげないで」と悲しみます。春、たくさんのピオーラやチューリップが咲き終わると、毎年球根を100以上掘り出します。枯れたチューリップの茎や葉、庭の緑や植木鉢などの庭の色を観察するため「色カードかくしゲーム」を息子と楽しみます。押し花もたくさん仕込み、押し花カードを作る子ども向け教室などを近所で開催するなど、庭から得られる資源で、みんなの心が豊かになっていくのを感じます。夏は、プールやスプリングラーでの水遊び。保育園が終わった後の夕方は、庭で三輪車やストライダーの練習、ホースで水まきをします。夫はキャンプのテントやタープをはり、「おうちでキャ

ンプ」体験です。花の水やりは息子の担当です。秋の庭はハロウィンカラーでコーディネート。変化朝顔の種子も毎年500粒以上収穫し、その数を数えて分類し冷蔵庫で保存します。おかげで我が家の冷蔵庫の野菜室は「種子保管庫」となっています。冬は寒いけど庭で息子とサッカルの練習です。昼間は、レモンの木に小さな実がつき、アゲハ蝶がやってきます。夜はライトアップした庭にコオロギなどの虫の音が響きます。金魚やカプトムシが死んだとき、庭のアジサイの木の下に穴を掘って埋めてやり、息子が庭の小花を添えました。そして、息子も4歳になり、手作りの砂場では物足りず、ストライダーから自転車へ、

サッカルのキック力も増して、そろそろ庭が狭く感じるようになりました。まだ、裏庭はフリースペースが残っています。今ではオールナイトガーデンングはできなくなってしまいましたが、小学生になったら一緒に裏庭をデザインしたいと考えています。



1. 保育園の先生へのプレゼント
2. ナイトローズ
3. 息子とじいじとのひと時
4. 水やり当番



作品ムービー

#### 講評



理事 白砂 伸夫

イチジク、サクラランボ、レモンなどに果樹が実り、育てた野菜で食卓を賑わせる、大切に育てたバラはプレゼントに、そしてさまざまな草花が四季を彩る。庭は子供たちにはスポーツグラウンド、ご主人は「お家でキャンプ」体験。家族のみなさんの朗らかな笑い声が聞こえてきそうで、これほど家族に愛された庭は他にあるでしょうか。「家庭」は「家」と「庭」と書きませんが、「庭」があつてはじめて「家庭」になります。庭をつくらない家がが増えていますが、それでは家族の絆は深まらない。「庭」をつくることは「家庭」をつくることだと、この庭は教えてくれます。このように庭が家族の思い出を紡ぎ、そしてと未来へとつながっていく、まさに「庭園物語」ですね。このような「庭園物語」が日本の家族の数だけ普及すれば、日本は笑顔にあふれた豊かな国になると思います。